

読みの基準（2021年1月）（案）

目次

1. はじめに	2
2. 読みの文字種	2
3. 読みの基準	2
4. 体現形に対する非統制形アクセス・ポイント（タイトル）の読み	3
5. 著作に対する典拠形アクセス・ポイントの読み	3
6. 創作者等に対する典拠形アクセス・ポイントの読み	4
7. 典拠形アクセス・ポイント（件名）、細目の読み	4
8. 出版表示等の読み	4
別紙1. 読みにおける記号・アラビア数字・ラテン文字の扱い	5
別紙2. 片仮名読み形記録要領	7
1. 漢字、仮名	7
2. 助詞「ハ」、「ヘ」、「ヲ」	7
3. 拗音、促音	7
4. 長音	7
5. 拗長音	8
6. 「ヂ」、「ヅ」	9
7. その他	9
8. ラテン文字等	10
9. 数字	10
10. 記号	11
付・第1表	12
付・第2表	13
付・第3表	15
別紙3. ローマ字読み形記録要領	16
1. 記録の方法	16
2. 適用規則	16
別表	18
別紙4. 分かち書き基準	20
1. 適用対象	20
2. 総則	20
3. 分かち書き例	20
別紙5. 片仮名読み形記録実例集	24

1. はじめに

国立国会図書館（以下「当館」）での書誌作成において読みを記録する目的は、特定の実体を発見、識別する手がかりを提供することである。

この文書では、『JAPAN/MARC MARC21 フォーマット』での読みについて規定する。

2. 読みの文字種

使用する言語および文字種により、以下の表に従って読みの有無および表記の形を選択する。

対象となる文字列の言語および文字種	読みの記録の形
日本語	片仮名読み形およびローマ字読み形
(片仮名のみ)	片仮名読み形およびローマ字読み形
(アラビア数字のみ)	記録しない
(ラテン文字のみ)	記録しない
中国語	片仮名読み形およびローマ字読み形
韓国・朝鮮語	漢字部分は片仮名読み形およびローマ字読み形、ハングル部分はハングル読み形
(ハングルのみ)	(原則として記録しない)
その他の言語	
(キリル文字、ギリシャ文字)	翻字形*
(ローマ数字)	アラビア数字
(上記以外の表示形)	(原則として記録しない)
(翻字形)	(原則として記録しない)

*読み形には当たらないが、読みのフィールドに記録する。

3. 読みの基準

- (1) 体現形に対する非統制形アクセス・ポイント（タイトル）、著作に対する典拠形アクセス・ポイント、創作者、非創作者、寄与者に対する典拠形アクセス・ポイント（以下「創作者等に対する典拠形アクセス・ポイント」）、典拠形アクセス・ポイント（件名）、および出版表示等（以下「タイトル等」）の読みに使用する文字種には、片仮名・記号・アラビア数字・ラテン文字（拡張ラテン文字を含む。以下同じ）の四種を用いる。
- (2) タイトル等の文字列が、読みの記録対象でない言語や文字種のみで構成されている場合は、書誌作成対象資料のルビ等に表現されている、創作者等の意図が込められた読みを記録する場合を除き、原則として読みを記録しない。

(3) 特定の実体を発見、識別する手がかりを提供するという、読みを記録する目的をより効果的に実現させるため、以下の三つの読みは、常識的な読み（4. ⑥を参照）よりも優先して記録する。

①別紙5「片仮名読み形記録実例集」に示す、優先して記録する読み

日本→ニホン、～町・～村（地方自治体）→～マチ・～ムラ

②当館の典拠形アクセス・ポイントの読み

③書誌作成対象資料のルビ等に表現されている、創作者等の意図が込められた読み

4. 体現形に対する非統制形アクセス・ポイント（タイトル）の読み

読みは、原則として以下に列挙する①～⑧のいずれかを記録する。

記録する際は、①～③を優先して採用する。ただし、地図資料に限り、参考資料等で判明した地方自治体の読みを優先して採用する場合がある。

著作に対する典拠形アクセス・ポイントにおける優先タイトルおよび異形タイトルについては、「5. 著作に対する典拠形アクセス・ポイントの読み」を参照。

①別紙5「片仮名読み形記録実例集」に示す、優先して記録する読み

日本→ニホン、～町・～村（地方自治体）→～マチ・～ムラ

②当館の典拠形アクセス・ポイントの読み

個人、家族、団体、地名、統一タイトル、著作に対する典拠形アクセス・ポイントの読み

③書誌作成対象資料から判明した読み

書誌作成対象資料の情報源（以下「情報源」）、その他容易にわかる部分に付されたルビ等の読み

④記号、アラビア数字、ラテン文字を含む読み

別紙1「読みにおける記号・アラビア数字・ラテン文字の扱い」を参照

⑤参考資料による読み

⑥常識的な読み

複数の読みが考えられるため判断に迷う場合や、単語の用いられ方や前後の文脈によって読み分ける場合などは、別紙5「片仮名読み形記録実例集」を参照

⑦問い合わせにより判明した読み

創作者等への問い合わせにより判明した読み

⑧その他の読み

①～⑦以外の手段により入手し、信頼性に足ると判断した読み

5. 著作に対する典拠形アクセス・ポイントの読み

「著作に対する典拠形アクセス・ポイントの選択・形式基準（2021年1月）」による。

6. 創作者等に対する典拠形アクセス・ポイントの読み

「個人に対する典拠形アクセス・ポイントの選択・形式基準（2021年1月）」、「団体に対する典拠形アクセス・ポイントの選択・形式基準（2021年1月）」による。

7. 典拠形アクセス・ポイント（件名）、細目の読み

個人・団体（団体として扱う地名を含む）に対する典拠形アクセス・ポイント（件名）の読みは「個人に対する典拠形アクセス・ポイントの選択・形式基準（2021年1月）」、「団体に対する典拠形アクセス・ポイントの選択・形式基準（2021年1月）」による。

家族・地名（団体として扱う地名を除く）・統一タイトル・普通件名・主題細目・形式細目の読みは「4. 体現形に対する非統制形アクセス・ポイント（タイトル）の読み」に準じる。ただし、①②⑤を優先し、「件名作業指針」も参照する。

8. 出版表示等の読み

出版表示、頒布表示、製作表示の読みは、「4. 体現形に対する非統制形アクセス・ポイント（タイトル）の読み」に準じる。

別紙1. 読みにおける記号・アラビア数字・ラテン文字の扱い

タイトル等に含まれる記号・アラビア数字・ラテン文字の読みは、以下の四つのパターンがある。

パターン1：仮名読みを読みとして記録する場合

パターン2：記号・アラビア数字・ラテン文字をそのまま読みとして記録する場合

パターン3：ラテン文字に翻字した文字またはアラビア数字に置き換えたものを読みとして記録する場合

パターン4：いずれの読みも記録しない場合

これらの読みのうちいずれか一つのパターンを「読みの基準（2021年1月）」に示す優先順位に従って採用する。

以下に、記号・アラビア数字・ラテン文字の読みにおける扱いを示す。

凡例：△は分かち書きの際のスペースを表す。

(1) パターン1：仮名読みを読みとして記録する場合

①記号・アラビア数字・ラテン文字にルビが付されている場合

Windows ウィンドウズ

②仮名読みが必要であると判断された記号

記号で、意味による仮名読みが必要であると判断された場合

(2) パターン2：記号・アラビア数字・ラテン文字をそのまま読みとして記録する場合

※仮名読みが必要であると判断される場合には、(1)を優先的に採用し、(2)は採用しない。

①記号

記号を省略するとその名称自体が損なわれる場合は、原則としてその記号をそのまま読みとして記録する。

②アラビア数字

アラビア数字は、原則としてそのまま読みとして記録する。

5回 5カイ

③ラテン文字

ラテン文字は、原則としてそのまま読みとして記録する。

Word裏技 Word△ウラワザ

(3) パターン3：ラテン文字に翻字した文字またはアラビア数字に置き換えたものを読みとして記録する場合

※仮名読みが必要であると判断される場合には、(1)②を優先的に採用し、(3)①～③は採用しない。

①キリル文字

キリル文字は、ラテン文字に翻字した文字を読みとして記録する。

Харбинцы Kharbintsy

②ギリシャ文字

ギリシャ文字は、ラテン文字に翻字した文字を読みとして記録する。ただし、ギリシャ文字を翻字すると意味が変わってしまうときは、ギリシャ文字をそのまま読みとして記録する。

μ m
プラス α プラス△ α

③ローマ数字

ローマ数字は、アラビア数字に置き換えたものを読みとして記録する。

III 3

(4) パターン4：いずれの読みも記録しない場合

①記号が意味をもたない場合

②日本語（漢字・平仮名・片仮名）、キリル文字・ギリシャ文字以外の文字種の組み合わせのみで構成されている場合

Windows (読みは記録しない)
Café (読みは記録しない)

ただし、ルビが付されている場合等は、仮名読みを記録する。（1）①を参照。

ウイINDOWズ Windows ウイINDOWズ

別紙2. 片仮名読み形記録要領

例示中の「△」は半角スペースを表す。

1. 漢字、仮名

漢字、仮名の片仮名読み形は、その発音に従い、第1表を用いて記録する。

現代詩	ゲンダイシ
想い出	オモイデ
ぐりとぐら	グリ△ト△グラ
りいぶる	リイブル
バレエ	バレエ
デジタル	デジタル
倫敦	ロンドン
伯林	ベルリン
則天武后	ソクテン△ブコウ
毛沢東	モウ△タクトウ
那波烈翁ト那杷盧的	ナポレオン△ボナパルト

2. 助詞「ハ」、「ヘ」、「ヲ」

助詞「ハ」、「ヘ」、「ヲ」は、「ワ」、「エ」、「オ」と記録する。

こんにちは	コンニチワ
いざこへ	イズコ△エ
字を書く	ジ△オ△カク

3. 拗音、促音

拗音を表す「ヤ」、「ュ」、「ヨ」は、「ヤ」、「ュ」、「ヨ」と小字で記録する。促音を表す「ツ」は、「ツ」と小字で記録する。

観覧車物語	カンランシャ△モノガタリ
著者	チョシャ
雑誌	ザッシ

4. 長音

(1) ア列の長音は、「ア」と記録する。

母さん	カアサン
-----	------

(2) イ列の長音は、「イ」と記録する。

兄さん	ニイサン
-----	------

(3) ウ列の長音は、「ウ」と記録する。

有数 ユウスウ

(4) エ列の長音は、「エ」と記録する。

姉さん ネエサン

(5) オ列の長音は、「ウ」と記録する。ただし、現代仮名遣いで「お」と書き表される長音は、「オ」と記録する。

労働法 ロウドウホウ

父さん トウサン

大阪 オオサカ

氷 コオリ

遠目 トオメ

(6) 情報源に長音符（一）で表示された長音は、長音符で記録する。また、長音符の使用が確立している語については、情報源に別の表示がない限り、長音を長音符で記録する。

バレー バレー

シェークスピア全集 シェークスピア△ゼンシュウ

クオータリー クオータリー

どーなる ドーナル

珈琲 コーヒー

（情報源に「こうひい」と表示されている場合は、「コウヒイ」と記録する。）

5. 拗長音

(1) ア列拗音の長音は、「ヤ」の次に「ア」と記録する。

じやあじやあ ジャアジャア

じやあね ジャアネ

(2) ウ列拗音の長音は、「ュ」の次に「ウ」と記録する。

乳牛 ニュウギュウ

(3) オ列拗音の長音は、「ヨ」の次に「ウ」と記録する。

表彰 ヒョウショウ

(4) 情報源に長音符（一）で表示された拗長音は、長音符で記録する。また、長音符の使用が確立している語については、情報源に別の表示がない限り、拗長音を長音符で記録する。

ジャーナリズム ジャーナリズム

ニュース ニュース

マトリョーシカ マトリョーシカ

ビミョー ビミョー

紐育 ニューヨーク

6. 「ヂ」、「ヅ」

「ヂ」、「ヅ」は、「ジ」、「ズ」と記録する。

ちかぢか	チカジカ
磯づり	イソヅリ
仮名遣い	カナズカイ
ちぢむ	チジム
つづり方	ツズリカタ
ヅーフ	ズーフ

7. その他

(1) 歴史的仮名遣い

歴史的仮名遣いは、その現代語音によって記録する。

てふてふ	チョウチョウ
どぜう	ドジョウ
みづゑ	ミズエ
あぢさゐ	アジサイ

(2) 「ヰ」、「ヱ」、「ヲ」

「ヰ」、「ヱ」、「ヲ」は、「イ」、「エ」、「オ」と記録する。

ヰタ・セクスアリス	イタ△セクスアリス
ナポレヲン	ナポレオン

(3) 「ワ̄」、「ヰ̄」、「ヱ̄」、「ヲ̄」

「ワ̄」、「ヰ̄」、「ヱ̄」、「ヲ̄」は、「ヴァ」、「ヴィ」、「ヴエ」、「ヴオ」と記録する。

ワ̄ルレンシュタイン	ヴァルレンシュタイン
ヱ̄ニス	ヴェニス

(4) 第1表にない仮名

第1表にない仮名は、表示に従って記録する。ただし、1～7 (3) で特に規定する場合は、それに従う。

キエルケゴール	キエルケゴール
ゲヨエテ	ゲヨエテ
ぼつけえ	ボッケエ

表示に従って記録できない場合は、第1表に含まれる文字に置き換える。

カ°	カ
----	---

8. ラテン文字等

(1) ラテン文字

対象となるエレメントがラテン文字またはラテン文字と記号のみで表記されているときは、読みの記録を省略することがある。省略しないときは、そのままラテン文字またはラテン文字と記号で記録する。

ラテン文字を含むときは、そのままラテン文字で記録する。

M&A	M△&△A
The 万年筆	The△マンネンヒツ
pH の理論と測定	pH△ノ△リロン△ト△ソクテイ
日本 BSCS 委員会	ニホン△BSCS△イインカイ
D.H.△ロレンスの文学	D.H.△ロレンス△ノ△ブンガク
MS-DOS プログラミング	MS-DOS△プログラミング
Pattern△making の研究	Pattern△making△ノ△ケンキュウ
Café 吉祥寺で	Café△キチジョウジ△デ

ただし、創作者等の意図が込められた読みとしてルビがあるときは、ルビによる読みに従って記録する。

ワイルド 7△ ^{リターンズ} R ワイルド△7△リターンズ

(2) キリル文字・ギリシャ文字

対象となるエレメントがキリル文字・ギリシャ文字のみで表記されているか、またはキリル文字・ギリシャ文字を含むときは、第2表に従ってラテン文字に翻字して記録する。

Преступление△и△наказание	Prestuplenie△i△nakazanie
επιστημη のオブジェクト指向	Episteme△ノ△オブジェクト△シコウ

ただし、創作者等の意図が込められた読みとしてルビがあるときは、ルビによる読みに従って記録する。

ベータ ^{ベータ} 遮断剤とは ベータ△シャダンザイ△トワ

9. 数字

(1) 漢数字

対象となるエレメントが漢数字で表記されているか、その一部に漢数字を含むときは、原則として第3表を用いて記録する。複数の読みがあるときは、他の語との結びつき等により、いずれかを記録する。

漢数字が成語または固有名詞の一部に含まれていて、慣用の読み方が確立しているときは、典拠とする参考資料に従って記録する。

二〇二〇年	ニセンニジュウネン
四次元	ヨジゲン
六義園	リクギエン

七転八起	ナナコロビ△ヤオキ
九尾の狐	キュウビ△ノ△キツネ

(2) アラビア数字

対象となるエレメントがアラビア数字を含むときは、原則としてそのままアラビア数字で記録する。ただし、アラビア数字のまま記録すると不自然なものは片仮名で記録する。また、創作者等の意図が込められた読みとしてルビがあるときは、ルビによる読みに従って記録する。

8mm 映画ハンドブック	8mm△エイガ△ハンドブック
20 年の歩み	20 ネン△ノ△アユミ
4 次元	4 ジゲン
10 回	10 カイ
1995.1.17 を証言する	1995.1.17△オ△ショウゲンスル
2 日制	ツツカセイ

(3) ローマ数字

対象となるエレメントがローマ数字を含むときは、原則としてアラビア数字に置換えて記録する。ただし、アラビア数字で記録すると不自然なものは片仮名で記録する。また、創作者等の意図が込められた読みとしてルビがあるときは、ルビによる読みに従って記録する。

ラムセスⅡ世	ラムセス△2 セイ
WWⅡ	WW2

10. 記号

対象となるエレメントが記号を含み、かつ、その記号を省略するとその名称 자체が損なわれる場合は、原則としてそのまま記録する（「別紙1 「読みにおける記号・アラビア数字・ラテン文字の扱い」（2）①を参照）。ただし、記号のまま記録すると不自然なものは片仮名で記録する。また、創作者等の意図が込められた読みとしてルビがあるときは、ルビによる読みに従って記録する。

学生のための一太郎@△Windows△95
ガクセイ△ノ△タメノ△イチタロウ△@△Windows△95
一太郎&Lotus△1-2-3@Windows△98
イチタロウ△&△Lotus△1-2-3△@△Windows△98
ハテナ と ピックリ
? と ! の話
ナゾヤマ
? 山宏
ハテナ△ト△ピックリ△ノ△ハナシ
ナゾヤマ△ヒロシ

付・第1表

ア	イ	ウ	エ	オ				
カ	キ	ク	ケ	コ	キヤ		キュ	キョ
サ	シ	ス	セ	ソ	シャ		シュ	ショ
タ	チ	ツ	テ	ト	チャ		チュ	チョ
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ニヤ		ニュ	ニョ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ヒヤ		ヒュ	ヒョ
マ	ミ	ム	メ	モ	ミヤ		ミュ	ミョ
ヤ		ユ		ヨ				
ラ	リ	ル	レ	ロ	リヤ		リュ	リョ
ワ								
ン								
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	ギャ		ギュ	ギョ
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	ジャ		ジュ	ジョ
ダ			デ	ド				
バ	ビ	ブ	ベ	ボ	ビヤ		ビュ	ビョ
パ	ビ°	ブ°	ペ	ボ°	ピヤ		ピュ	ピョ
			イエ					
	ウイ		ウエ	ウォ	ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴエ
							ヴュ	
クア	クイ		クエ	クオ	グア			
			シェ					ジエ
			チエ					
ツア	ツイ		ツエ	ツオ				
	ティ	テュ				ディ	デュ	
		トウ					ドウ	
ファ	フィ		フェ	フォ				
		フュ						

付・第2表

キリル文字		翻字形	
А	а	А	а
Б	б	Б	б
В	в	В	в
Г	г	Г	г
Д	д	Д	д
Е	е	Е	е
Ё	ё	Е	е
Ж	ж	Zh	zh
З	з	Z	z
И	и	I	i
Й	й	I	i
К	к	К	k
Л	л	L	l
М	м	M	m
Н	н	N	n
О	о	O	o
П	п	P	p
Р	р	R	r
С	с	S	s
Т	т	T	t
У	у	U	u
Ф	ф	F	f
Х	х	Kh	kh
Ц	ц	Ts	ts
Ч	ч	Ch	ch
Ш	ш	Sh	sh
Щ	щ	Shch	shch
҃	҃	" ("")	
Ы	ы	Y	у
Ь	ь	' (')'	
Э	э	Е	е
Ю	ю	Iu	iu
Я	я	Ia	ia

ギリシャ文字		翻字形	
A	α	A	a
B	β	V	v
Γ	γ	G	g (※1)
Δ	δ	D	d
E	ε	E	e
Z	ζ	Z	z
H	η	E	e
Θ	θ	Th	th
I	ι	I	i
K	κ	K	k
Λ	λ	L	l
M	μ	M	m
N	ν	N	n
Ξ	ξ	X	x
O	ο	O	o
Π	π	P	p
P	ρ	R	r
Σ	σ	S	s
T	τ	T	t
Y	υ	Y	y (※2)
Φ	φ	Ph	ph
X	χ	Ch	ch
Ψ	ψ	Ps	ps
Ω	ω	O	o

(※1) γ、κ、ξ、χの前では g ではなく n と表記する。

(※2) ιの前ならびに α、ε、η、ο、ωの後では y ではなく u と表記する。

付・第3表

	優先する表記	他語と結びつき 促音となる場合	慣用として異なる 読み方が確立 している場合
1 (一)	イチ	イッ	
2 (二)	ニ		
3 (三)	サン		
4 (四)	シ		ヨン
5 (五)	ゴ		
6 (六)	ロク	ロッ	
7 (七)	シチ		ナナ
8 (八)	ハチ	ハツ	
9 (九)	ク		キュウ
10 (十)	ジュウ	ジツ	
0 (零)	レイ		

別紙3. ローマ字読み形記録要領

1. 記録の方法

ローマ字読み形は、片仮名読み形を、「ローマ字のつづり方」(昭和29年内閣告示第1号)の第1表に従って翻字して記録する。ただし、第2表につづり方が示されているものは、第2表に従って記録する。別表に一覧を示す。

2. 適用規則

例示中の「△」は半角スペースを表す。

(1) 撥音「ン」は、すべて「n」を使用する。

案内	アンナイ	annai
ポンプ	ポンプ	ponpu

(2) 撥音の「n」に後続する字が母音または「y」であるときは、「n」の次に「'」を入れる。

金印	キンイン	kin'in
パン屋	パンヤ	pan'ya

(3) 促音は子音を二つ重ねる。ただし、エレメントの末尾等に現れる促音で、子音の重複が行えないときは「tsu」を使用する。

切手	キッテ	kitte
勝てつ	カテツ	katetsu

(4) 長音および長母音は無視して記録する。

東宮	トウグウ	togu
お母さん	オカアサン	okasan
スーパーかー	スーパーかー	supaka

(5) 母音と母音の間に形態素の切れ目があるときは、それぞれの母音を省略しない。

長雨 (なが-あめ)	ナガアメ	nagaame
黄色 (き-いろ)	キイロ	kiiro

(6) 片仮名読み形の片仮名が第1表および第2表にないときは2音で記録する。

ペルシャ	ペルシャ	perusha
デイジタル	デイジタル	dijitaru
ペルシア	ペルシア	perushia
コントウェルン	コントウェルン	kontsuerun
テレシコワ	テレシコワ	tereshikowa

(7) ラテン文字は、そのままラテン文字で記録する。

pHの理論と測定	pH△ノ△リロン△ト△ソクテイ	pH△no△riron△to△sokutei
----------	-----------------	------------------------

(8) アラビア数字は、そのままアラビア数字で記録する。

20年の歩み 20 ネン△ノ△アユミ 20nen△no△ayumi
ラムセスⅡ世 ラムセス△2セイ ramusesu△2sei

別表

ア (ア)	イ (イ)	ウ (ウ)	エ (エ)	オ (オ)					
a	i	u	e	o					
カ (カ)	キ (ケ)	ク (ケ)	ケ (ケ)	コ		キヤ	キュ	キヨ	(キエ)
ka	ki	ku	ke	ko		kyा	kyu	kyo	(kye)
サ	シ (シ)	ス (ス)	セ (セ)	ソ (ソ)		シャ	シュ	ショ (ショ)	
sa	shi*	su	se	so		sha*	shu*	sho*	(she)*
タ	チ (チ)	ツ (ツ)	テ (テ)	ト (ト)		チャ	チュ	チヨ (チヨ)	
ta	chi*	tsu*	te	to		cha*	chu*	cho*	(che)*
	(ティ) (ti)	(トウ) tu*				(テヤ) (tya)	(テュ) (tyu)	(テヨ) (tyo)	
ナ	ニ (ニ)	ヌ (ヌ)	ネ (ネ)	ノ (ノ)		ニヤ	ニユ	ニヨ (ニヨ)	
na	ni	nu	ne	no		nya	nyu	nyo (nye)	
ハ	ヒ (ヒ)	フ (フ)	ヘ (ヘ)	ホ (ホ)		ヒヤ	ヒュ	ヒヨ (ヒヨ)	
ha	hi	fu*	he	ho		hya	hyu	hyo (hye)	
(ファ) (fa)	(フィ) (fi)		(フェ) (fe)	(フォ) (fo)		(ファ) (fya)	(フュ) (fyu)	(フヨ) (fyo)	
マ (マ)	ミ (ミ)	ム (ム)	メ (メ)	モ (モ)		ミヤ	ミュ	ミヨ (ミヨ)	
ma	mi	mu	me	mo		mya	myu	myo (mye)	
ヤ		ユ (ユ)		ヨ (ヨ)					
ya		yu		yo					
(ヤ) (ya)		(ユ) (yu)		(ヨ) (yo)					
ラ	リ (リ)	ル (ル)	レ (レ)	ロ (ロ)		リヤ	リュ	リヨ (リヨ)	
ra	ri	ru	re	ro		rya	ryu	ryo (ryo)	
ワ (ワ)	(ヰ) (wi)		(ヱ) (e)	ヲ (o)	ン (n)				
wa	(i)		(e)	o	n				
ガ	ギ (gi)	グ (gu)	ゲ (ge)	ゴ (go)		ギャ	ギュ	ギヨ (ギヨ)	
ga	gi	gu	ge	go		gya	gyu	gyo (gye)	
ザ	ジ (ji)	ズ (zu)	ゼ (ze)	ゾ (zo)		ジャ	ジュ	ジョ (ジョ)	
za	ji*	zu	ze	zo		ja*	ju*	jo* (je)*	
ダ	ヂ (di)	ヅ (du)	ヂ (de)	ド (do)		(ヂヤ)	(ヂュ)	(ヂヨ) (ヂヨ)	(ヂエ)

da	ji*	zu	de	do		(ja)*	(ju)*	(jo)*	(je)*
	(デイ)	(ドウ)				(デヤ)	(デュ)	(デヨ)	
	di	du*				(dya)	(dyu)	(dyo)	
バ	ビ	ブ	ベ	ボ		ビヤ	ビュ	ビヨ	(ビエ)
ba	bi	bu	be	bo		bya	byu	byo	(bye)
(ヴァ)	(ヴィ)	(ヴ)	(ヴエ)	(ヴオ)		(ヴヤ)	(ヴュ)	(ヴヨ)	
(va)	(vi)	(vu)	(ve)	(vo)		(vyd)	(vyu)	(vyo)	
ぱ	ピ	プ	ペ	ボ		ピヤ	ピュ	ピヨ	(ピエ)
pa	pi	pu	pe	po		pya	pyu	pyo	(pye)

*は「ローマ字のつづり方」第2表に従った（または準じた）表示。（ ）は当館追加分

別紙4. 分かち書き基準

1. 適用対象

この基準は、当館が作成および提供する書誌データ（以下「書誌データ」）の各種アクセス・ポイント（体現形に対する非統制形アクセス・ポイント（タイトル）、著作に対する典拠形アクセス・ポイント、団体に対する典拠形アクセス・ポイント等）の読みに用いる分かち書きを対象とする。

2. 総則

- (1) 分かち書きは、検索語となる自立語を対象とする。日本語の場合は、日本語として不自然でない意味のまとまりで分かち書きを行う。外来語の場合は、当該言語の単語分割により分かち書きを行う。
- (2) 自立語のうち、名詞、接続詞、感動詞は分かち書きを行う。
- (3) 名詞のうち、複合名詞は意味のまとまりの単位で分かち書きを行う。
- (4) 自立語のうち、連体詞、副詞は原則として分かち書きを行うが、他の品詞と接続して慣用されることが多い語は、原則として他の品詞と接続した形で分かち書きを行う。
- (5) 自立語のうち、活用のある動詞、形容詞、形容動詞は、原則として付属語とともに分かち書きを行う。
- (6) 非自立語のうち、名詞に続く助詞、助動詞は分かち書きを行う。
- (7) 非自立語の複合形の分かち書きは統制しない。

3. 分かち書き例

以下に分かち書きの例を示す。

(1) 凡例

- ①この基準では品詞単位での分かち書きは採用しないが、以下の例では便宜上品詞順に構成し、解説する。
- ②「分かち書き」を行うか否かは、「分割する」、「(複合形をもって) 一語とする」の表現で規定する。
- ③書誌データの分かち書きはアクセス・ポイントの読みでのみ統制するが、以下の例では主として漢字で実例を示し、分かち書きを行う箇所に△印を記す。

(2) 非活用語

- ①名詞（外来語も含む）・代名詞
 - ・単一の名詞は分割する。
案内 ; 私 ; ガイドライン
 - ・複合名詞のうち、分割しても意味を損なわないものは分割する。
情報△処理 ; 内閣△総理△大臣 ; 超大△望遠鏡

・分割すると意味のまとまりを損なう複合名詞は、複合形をもって一語とする。

教え子；虎の巻；息の根；早分かり；湯豆腐；魔女狩り
作曲者名；海水浴場；小中学校長；都道府県立

・種を示す語、動植物名等は一語とする。

サルノコシカケ；ツキノワグマ；カラスムギ；サイトメガロウイルス

・対語、並立語は漢字二字の場合は一語とし、三字以上の場合はそれぞれの語で分割する。
また、疊語（副詞的表現を含む）は一語とする。

父母；英米；海△山△川；英△米△独△仏
国々；食べ食べ；寒々；ますます；ドキンドキンドキン

・熟語として慣用されている語、略語、略称、省略形は一語とする。

市町村；陸海空；労組；経団連；原水爆

・接頭語、接尾語は分割すると意味のまとまりを損ねる場合は一語とする。

真犯人；無政府；反体制；軽自動車；有資格者；文学史；絵
画展；基準案；唯物論

・接頭語のうち、分割しても意味のまとまりを損ねない場合、および意味上の関係が後続語以降の名詞にも及ぶ場合は分割する。

各△議員；当△施設；元△ボクサー
大△国語△辞典；反△帝国△主義

・固有名に付く接尾語のうち、分割しても意味のまとまりを損ねない場合は分割する。

大江△健三郎△論；ターナー△展；ソニー△株式△会社△史；江戸城△
考；上野△発；源氏△物語△論

・地名に付属する「史」「誌」は地名との複合形をもって一語とする。また、地名に行政単位等を示す語が付属する場合は、行政単位等を示す語と「史」「誌」との複合形をもって一語とし、地名を分割する。

日本史；ローマ誌；仙台誌
愛知△県史；世田谷△区史；大阪△府誌

・固有名以外に付く接尾語で、分かち書きする熟語に付く場合は後尾の単語との複合形をもって一語とする。

現代△の△子ども展；政治△経済史；文化△人類学考

・小数、分数は分割しない。接尾語である助数詞は、数詞との複合形をもって一語とする。

3.14；100%；12回

・序数詞「第」は、接尾語のあるなしに問わらず一語とする。

第三△帝国；第三次△産業

・人名は姓と名で分割する。姓名形の人名につく敬称・呼称等の接尾語は分割する。ただし、愛称、姓名のいずれかのみにつく場合、一族を表す場合は一語とする。

山田△太郎△様；鈴木△花子△さん；ドナルド△キーン△氏

Qちゃん； 鈴木さんち； 五郎君； 冷泉家

- ・人名以外につく接尾語は、分割しない。

おしゃかさま； ぞうさん

②副詞・連体詞・接続詞・感動詞

- ・それぞれの単位で分割する。

晴れ△または； さらば△夏； たった△ひとり△の； もっと△遠く；
あらゆる△国△で； 大きな△店

- ・連体詞のうち代名詞的機能をもつ語や熟語として使用される語は複合形をもって一語とする。

我が家； 我が国； 彼女； その他； その上
ただし、分割しても意味を損ねない場合は分割する。

わが△人生； ある△時代

(3) 活用語

①動詞

- ・名詞が後続する場合は分割する。

走る△人； 動く△石像

- ・活用語尾を含めて一語とする。

学ぶ； 走れ

- ・複合動詞は複合形をもって一語とする。名詞+動詞からなる場合は、分割してもよい。

歩き続ける； 立ち上がる

対立する（対立△する）； 実現する（実現△する）

- ・名詞+助詞+動詞からなる場合に、分割すると意味のまとまりを損なう、慣用的な語句とみなされるときは、一語としてもよい。

身につく； 気にする； 腹が立つ

- ・動詞同士が接続助詞によって接合している場合は、一語としても、分割してもよい。

知っておきたい； 隠してある； 泣いて△綴った； 食べて△育つ

②形容詞

- ・意味を損ねない範囲で分割する。

強い△のが△勝つ； かわいい△子； 遠く△聞こえる

- ・複合形容詞は複合形をもって一語とする。名詞+形容詞からなる場合は、分割してもよい。

細長い； 蒸し暑い

理解しやすい（理解△しやすい）

- ・「ない（無い）」は分割する。打ち消しを表す補助形容詞「ない」の場合は、一語としても分割してもよい。

勇気△が△ない

関係ない (関係△ない) ; 若くない (若く△ない) ; 静かでない (静かで△ない、静か△で△ない)

(注) 助動詞の「ない」は分割しない。(④助動詞を参照)

③形容動詞

・活用語尾や後続する付属語との複合形をもって一語とする。名詞+助動詞の「だ」や連体詞との区別がつきにくい場合は、日本語として不自然でなければ分割してもよい。

偉大な (偉大△な) ; 幸福な (幸福△な) ; 有能でない (有能△で△ない)
大いなる△遺産 ; あまりに△人間的な

・指示形容動詞は一語とする。

こんなに (こんな△に)

④助動詞

・名詞等の非活用語に続く助動詞は分割する。

灯△だ ; 大雨△らしい

・助動詞が活用語の活用語尾に続く場合は、活用語との複合形をもって一語とする。名詞が後続する場合は分割する。

魅せられる ; 失われた△時 ; 死せる△魂

明けない ; 解けない

(形容詞の「ない (無い)」および打ち消しを表す補助形容詞「ない」については、
②形容詞を参照)

・「ようだ」およびその活用形は、以下のとおりとする。

太陽△の△ような ; 天使△の△よう ; このような (この△ような) ;
あんなよう

⑤助詞

・名詞等の非活用語に続く助詞は分割する。

荒野△の△狼 ; 辺境△から

・助詞が活用語の活用語尾に続く場合は、活用語との複合形をもって一語とする。

雨△が△やんでも ; 誰△に△住みよいか

・指示代名詞に続く助詞は分割するが、意味のまとまりによっては一語としてもよい。

これ△が△パリ ; そこ△は ; それから ; これも

別紙5. 片仮名読み形記録実例集

- この実例集では、複数の読みが考えられるため判断に迷う場合、単語の用いられ方や前後の文脈によって読み分ける場合などの、実例の一部を示す。必要に応じて適切な読みを選択する。
- ルビ等により他の読みが判明した場合は、その読みを優先して記録する。

(1) 複数の読みが考えられる場合に、優先して記録する読み

以下の単語については、下表に掲げた読みを優先して記録する。

項目	優先して記録する読み
日本	ニホン (注)「統一タイトル件名」も参考資料の読みより優先する
～町 (地方自治体)	～マチ
～村 (地方自治体)	～ムラ

(2) 複数の読みが考えられる場合に、読み分ける単語

用いられ方や前後の文脈によって適切な一方を選択する。なお、ルビ等により他の読みが判明した場合には、その読みを優先して記録する。

以下に実例の一部を示す。

項目	読み	備考
足跡	アシアト (句集、歌集、文学的自伝)	
	ソクセキ (社史、団体史、その他叙述的記録)	
明日	アス	
	アシタ	
	ミヨウニチ	
生花	イケバナ (一般)	
	セイカ (古流・造花に対して)	
	ショウカ (古流のうち、流派による)	
石綿	イシワタ	例：石綿

項目	読み	備考
	セキメン	例：石綿糸、石綿スレート、 石綿肺
市場 (単独の場合)	イチバ (一般)	
	シジョウ (経済用語)	
市場 (複数語の場合)	イチバ	例：魚市場、野菜市場
	シジョウ	例：市場経済、卸売市場、畜産市場
魚 (魚類の総称)	ウオ	
	サカナ	
開眼	カイガン (医学)	
	カイゲン (仏教)	
係る	カカル (官庁文書)	
	カカワル (一般)	
気質	カタギ (物事のやり方、性質、 気風)	
	キシツ (感情・遺伝的性質)	
漢書	カンショ (漢文の書物)	
	カンジョ (中国の歴史書)	
教化	キョウカ	
	キョウケ、キョウゲ (仏教用語)	
競売	キョウバイ (一般)	
	ケイバイ (法律用語)	
求道	キュウドウ	
	グドウ (仏教関係に限る)	
区分	クブン (一般)	
	クワケ (明治初期における都市 村落の区分)	
血脉	ケツミヤク (一般)	
	ケチミヤク (仏教用語)	
現世	ゲンセイ (現代の意)	
	ゲンセ (仏教用語)	
口腔	コウコウ (一般)	
	コウクウ (慣用読み。医学。)	

項目	読み	備考
後世	コウセイ (後の時代の意)	
	ゴセ (仏教用語)	
公文	コウブン (一般)	
	クモン (中古の政務上の文書)	
作法	サクホウ	例: 文章作法
	サホウ	例: 行儀作法、礼儀作法
雑 (部)	ザツ (ブ) (一般)	
	ゾウ (ブ) (和歌・俳諧)	
施業	シギョウ	
	セギョウ (林業関係)	
施行 (法律、政策・計画)	シコウ	
	セコウ	
借家	シャクヤ (一般)	
	シャツカ (法律用語)	
頭蓋骨	ズガイコツ (一般)	
	トウガイコツ (医学用語)	
施工 (工事)	セコウ	
	シコウ	
前世	ゼンセ (現世、来世との対比)	
	ゼンセイ (「昔、いにしえ、前代」の意)	
～造	～ゾウ	ただし「～造り」→「～づくり」
草子、草紙、双紙、冊子	ゾウシ (単独)	ただし「浮世一」→「ウキヨゾウシ」
	～ゾウシ (「～草子」「～草紙」などの複熟語)	個別の古典の読みは『日本古典籍総合目録』、『国書総目録』を見よ
転生	テンセイ	ただし「輪廻転生」→「リンネ△テンショウ」
読本	トクホン (単独)	
	～ドクホン (「～読本」の複熟語)	

項目	読み	備考
	ヨミホン、ヨミボン（江戸時代の日本的小説の一種）	
男色	ナンショク（古いもの、黄表紙）	
	ダンショク（現代）	
博士	ハクシ（現今の学位に限る、法学博士）	
	ハカセ（「お天気博士」等の一般的用法、律令時代の官名）	
二人	フタリ	ただし「同行二人」（四国巡礼）→「ドウギョウ△ニニン、ドウギョウ△フタリ」
仏国	フツコク（フランス）	
	ブッコク（浄土）	
古本	フルホン（主に「使い古しの本」）	
	コホン（主に古い時代の書、『国書総目録』の読みに従う）	
兵法	ヘイホウ（現代語）	ただし『国書総目録』にあれば「ヒョウホウ」
法衣	ホウイ	
	ホウエ（僧服の意の仏教用語）	
法華（法華宗）	ホッケ	ただし「法華経」→「ホケキヨウ」
	ホッケシュウ	
骨	ホネ（一般）	
	コツ（医学用語）	単独では訓読み
真面目	マジメ	
	シンメンモク	
町家	マチヤ（建物）	
	チョウカ（商売をしている人々）	
眼鏡	メガネ（一般）	ただし「眼鏡店」→「メガネテン」
	ガンキョウ（専門用語）	
文字	モジ（字、ことば、文言）	

項目	読み	備考
	モンジ (言語の伝達手段の一面をない、一定の約束に従って点・線を組み合わせてそれぞれの言語の意味や音を書き表した符号)	
文書 (昔の記録)	モンジョ (江戸期以前)	
	ブンショ (明治期以降)	
文書館	モンジョカン	当該事例の読みに従う
	ブンショカン	
遺言	ユイゴン (一般)	
	イゴン (法律用語)	
遊行	ユギョウ (仏教)	
	ユウコウ	
立像	リツゾウ (一般)	
	リュウゾウ (仏像)	
律令	リツリョウ	ただし旧憲法時代に台湾総督が発した命令は「リツレイ」
礼拝	レイハイ (キリスト教)	
	ライハイ (仏教・神道)	